

# 短大生の経済状況と将来への展望と精神的健康度の関係

—実態報告と支援の可能性を探る—

中山 文子, 飯塚 徹

松本大学松商短期大学部 経営情報学科

## 概要

本研究は、短期大学生の経済状況（経済困窮感）、将来展望、精神的健康（心の健康）の実態を把握し、それらの関連を明らかにすることを目的として実施した。質問紙調査の結果、職業不安や経済不安は比較的高い水準にあり、経済困窮感は生活満足や未来への希望と負の関連を、将来不安および心理的苦痛と正の関連を示した。将来の見通しの持ちにくさが心理的苦痛と関連している可能性が考えられた。自由記述においても、就職・進路不安を中心に、仕事への適応、金銭面、人間関係への不安が併せて語られ、量的結果を補完する実態が確認された。また、金融知識は必ずしも高くない一方で、金融学習意欲は高く、将来設計に向けた学びへの関心の高さが示された。以上より、将来不安には経済面と心理面が相互に関係しており、進路支援・金融教育・心理的支援を連動させた支援の重要性が示された。

## I. はじめに

近年、物価上昇や雇用環境の変化により、若年層を取り巻く経済環境は不安定化している。全国大学生活協同組合連合会（2024）の学生生活実態調査では、生活費や将来への不安が学生の主要な悩みとして挙げられている。また、日本学生支援機構（2024）によれば、奨学金利用率は昼間部で6割を超えており、経済的背景が学生生活に与える影響は大きいことが示されている。特に短期大学生は在学期間が2年間と短く、在学中から学業と生活の両立に加え、卒業後の進路選択を早期に具体化する必要がある。そのため、経済状況は日常生活上の課題にとどまらず、将来展望や精神的健康にも関連する可能性がある。若年層における将来不安や心理的ストレスの高さについては、公的統計や白書等においても継続的に報告されている（厚生労働省, 2024；内閣府, 2024）。

本研究では、短期大学生を対象に、①現在の経済状況（経済困窮感）、②将来への展望（将来不安・将来希望）、③精神的健康度（心の健康尺度）の実態を記述統計により明らかにし、さらにこれらの関係を検討することを目的とした。加えて、今後のキャリア支援および金融リテラシー教育の在り方を検討するため、マイナビ全国調査の項目に準拠した職業観に関する調査も実施し、補助調査として考察に用いた。

## II. 方法

本研究は、短期大学生を対象とした匿名・横断的質問紙調査である。調査は2025年10月～12月にMicrosoft Formsを用いたオンライン質問紙で実施した。学内にてQRコードを配布し、回答は各自の

端末から行う方式とした。参加は任意とし、回答を強制しない形で実施した。調査は匿名で実施し、個人を特定し得る情報は収集しなかった。回答には一定の時間的負担を伴うことから、謝礼として栄養補助食品を配布した。謝礼は、回答終了後に提示したキーワードを後日申告した学生に配布する形式とし、個人が特定されない方法で実施した。また、本調査は、所属機関の研究倫理に関する内規に基づき、倫理審査の対象外として実施した。

#### 【調査項目（尺度・選択肢・得点化）】

本調査では、以下の基本属性、生活評価、将来不安、金融に関する認知、心の健康について回答を得た。

##### (1) 基本属性

学年（1年／2年）、性別（男／女／その他）、生活形態（同居／一人暮らし／その他）、居住地（県内  
中信地区／県内その他／その他）、奨学金等利用の有無

##### (2) 生活と経済面の評価

生活満足感：「私は今の生活に満足している」と経済困窮感：「私は金銭面で困窮している」について測定し、各項目の得点を分析に用いた。本調査における各質問項目は、6件法による自己評定尺度を用いて測定した。回答は以下の6段階で求めた。1：全く当てはまらない 2：あまり当てはまらない 3：どちらかといえば当てはまらない 4：どちらかといえば当てはまる 5：かなり当てはまる 6：非常に当てはまる。数値が高いほど当該内容の程度が高いことを示すよう得点化した。

##### (3) 未来への希望と将来不安

未来への希望については1項目を設定した（「これからの未来に希望がもてる」）。将来不安は以下の3項目を設定し、各得点を個別に分析した。生活不安（将来の生活への不安）、職業不安（将来の仕事への不安）、経済不安（将来の経済面への不安）いずれも（2）と同様の6件法で測定し、各項目得点を用いた。また将来の地元定住意向（今後も地元で生活していきたい）も合わせて4件法で調査した。

##### (4) 心配事の自由記述

将来に関する具体的内容を把握するため、「現在感じている将来の不安や心配事について自由に記述してください」の自由記述項目を設けた。得られた回答は内容の類似性に基づき分類し、件数および割合として集計した。

##### (5) 金融に関する認知

金融（活用）知識：「資産形成やお金の活用術について知っている」、金融学習意欲：「資産形成やお金の活用術について学びたい」。いずれも（2）と同様の6件法で測定し、各項目得点を用いた。

##### (6) 心の健康（K6）

心の健康（精神的健康度）について Kessler Psychological Distress Scale 6項目版（K6）日本語版を用いた。過去30日間における心理的苦痛の頻度を5件法で測定し、6項目の合計得点を算出した。得点が高いほど心理的苦痛が高く、心の健康が低いことを示す。項目は以下の通りである。「神経過敏に感じましたか」「絶望的だと感じましたか」「そわそわして、落ち着かなく感じましたか」「気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか」「何をすることも骨折りだと感じましたか」「自分は価値のない人間だと感じましたか」0＝まったくない～4＝いつもの5件法で合計0～30点。

##### (7) 短大生の職業観・結婚観調査

期間内の別日に、「マイナビ2026年卒大学生のライフスタイル調査（2024）」および「こども家庭庁

ライフデザイン・ワーキンググループ配付資料（2025）」の調査項目に準拠した職業観・結婚観に関する調査を実施した。本報告では、短期大学生の実態把握を補完する調査として位置づけ、結果を示すとともにその特徴について考察する。なお、本調査では心理的ウェルビーイング尺度も併せて実施しているが、本報告書では主として経済困窮感と心の健康との関連に焦点を当てる。

### 【統計解析の方法】

上記の調査項目を用いて助成金研究報告として、主に以下の内容を検討した。統計解析には IBM SPSS Statistics (ver.28) を使用した。

#### (1) 記述統計の算出

各尺度について平均値、標準偏差、最小値、最大値を算出し、短期大学生の経済状況（経済困窮感）、将来意識、心の健康の基礎的傾向を把握した。

#### (2) 分布の把握（ヒストグラムの作成）

主要変数「経済状況（経済困窮感）、将来不安（経済・職業・生活）、等」についてヒストグラムを作成し、回答分布の偏りやばらつきの特徴を視覚的に確認した。

#### (3) 相関分析

経済状況（経済困窮感）と心の健康との関連を検討するため、主要変数間の相関分析（Pearson の積率相関係数）を実施し、経済的不安と心理的状态の関連性を探索的に検討した。

#### (4) 金融リテラシーおよび職業観の検討

短期大学生の金融知識および金融学習意欲の実態を整理するとともに、将来意識や職業観との関連を踏まえ、経済的自立やキャリア形成への示唆について総合的に考察した。

## III. 結果

### 1. 対象者の基本属性および記述統計

本調査の対象者は短期大学生 178 名であった。調査対象 210 名に QR コードを配布し、回収数は 178 名であった（回収率 85.0%）。学年は 1 年生 111 名（62.4%）、2 年生 67 名（37.6%）であった。年齢は 19 歳が最も多く 96 名（53.9%）、次いで 20 歳 50 名（28.1%）であった。性別は女性 134 名（75.3%）、男性 43 名（24.2%）、その他 1 名であった。生活形態は家族等と同居が 144 名（80.9%）と大半を占め、一人暮らしは 33 名（18.5%）であった。奨学金等利用者は 75 名（42.1%）、非利用者は 103 名（57.9%）であった。

### 2. 主要変数の記述統計および分布

主要変数（項目）の記述統計量（平均値・標準偏差）を表 1 に示し、各項目の回答分布をヒストグラムとして資料に示した。

#### (1) 生活評価

生活満足感の平均は  $M=4.59$  ( $SD=1.10$ ) であり、尺度中点を上回っていた。高満足群（5・6）は 56.7% を占め、低満足群（1・2）は 5.1% にとどまった。全体とし

表 1. 主要項目の記述統計

	n	Min	Max	M	SD
生活満足感	178	1	6	4.59	1.097
経済困窮感	178	1	6	3.43	1.418
未来への希望	178	1	6	3.66	1.348
地元定住意向	178	1	4	3.10	0.775
生活不安感	178	1	6	4.16	1.292
職業不安感	178	1	6	4.53	1.175
経済不安感	178	1	6	4.11	1.314
金融知識	178	1	6	2.78	1.137
金融学習意欲	178	1	6	4.33	1.097
心の健康	178	0	22	8.81	6.314

て現在の生活に対する肯定的評価が優勢であった。経済状況（経済困窮感）の平均は  $M=3.43$  ( $SD=1.42$ ) であり、中点付近の値を示した。一方、「かなり困窮」「非常に困窮」(5・6) と回答した学生は 24% にのぼり、約 4 人に 1 人が困窮感を抱えていた。

#### (2) 未来への希望と将来不安

未来への希望の平均は  $M=3.66$  ( $SD=1.35$ ) であった。高希望群 (5・6) は 24.7%、低希望群 (1・2) は 23.0% であり、中間層 (3・4) が 52.3% を占めた。希望を十分に持てていない層も一定割合存在していた。将来不安 3 項目はいずれも中点を上回っていた。

- 生活不安  $M=4.16$  ( $SD=1.29$ )、高不安群 39.9%
- 職業不安  $M=4.53$  ( $SD=1.18$ )、高不安群 51.7%
- 経済不安  $M=4.11$  ( $SD=1.31$ )、高不安群 37.1%

特に職業不安は半数を超え、最も高い水準を示した。低不安群はいずれも 1 割前後にとどまり、多くの学生が何らかの将来不安を抱えている実態が確認された。

#### (3) 心の健康 (K6)

K6 の平均は  $M=8.81$  ( $SD=6.31$ ) であった。10 点以上の心理的苦痛リスク群は約 4 割であり、心理的負担の高い学生が一定割合存在していることが示された。若年層における心理的ストレスの高さは全国的にも報告されており（厚生労働省，2024；内閣府，2024）、本調査の結果もそうした傾向と概ね整合するものであった。

#### (4) 金融認知

金融知識の平均は  $M=2.78$  ( $SD=1.14$ ) であり、尺度中点を下回っていた。低知識群 (1・2) は 42.7%、高知識群 (5・6) は 5.1% にとどまった。

一方、金融学習意欲は  $M=4.33$  ( $SD=1.10$ ) であり、高意欲群 (5・6) は 41.5% を占め、低意欲群 (1・2) は 7.3% であった。知識不足と高い学習ニーズの併存が確認された。

#### (5) 分布の総括

生活満足は比較的高水準にある一方で、職業不安 (52%)、心の健康 (K6) リスク群 (43%)、低金融知識層 (43%) など、心理的負担や将来不安を抱える学生も少なくない実態が示された。経済的困窮感の高群は 24% であったが、将来不安や心理的苦痛の割合はそれを上回っており、経済状況のみならず将来展望の不確かさが学生の心理面に影響している可能性が示された。

### 3. 自由記述の分析

自由記述の内容を整理したところ、最も多かったのは就職・進路に関する不安であった。「就職できるか不安」「ちゃんと就職できるか」「就活がうまくいくか」「いい就職先につけるのか」など、就職そのものへの不安が多数みられた。また、「自分のやりたいことがわからない」「どんな仕事につきたいか決まっていない」「自分に合っていなかったらどうしよう」といった進路決定の迷いも目立った。

次に多かったのは、仕事への適応や自己能力に関する不安である。「ちゃんと仕事できるかなあ」「仕事が続けられるか」「社会に出てうまくやっていけるか不安」「ミスをしたときに対処できるか心配」など、社会人としてやっていけるかという不安が多く記されていた。

金銭面の不安も頻出した。「一人暮らしになるので金銭面の問題」「お金の困らないか」「奨学金返していけるか」「生活費を貯めること」など、生活基盤に直結する内容が挙げられた。

さらに、人間関係への不安もみられた。「新しい環境で信頼関係を築いていけるのか」「職場での人間関係」「人間関係でうまくいくか心配」など、環境変化への適応が課題として意識されていた。そのほか、「結婚できるか」「幸せに生きられるか」「自分の存在の必要性があるのか」といった、より広い人生不安も一部にみられた。

全体として、短期大学生の不安は①就職・進路不安を中心に、②仕事適応、③金銭面、④人間関係が重なり合う構造を示していた。また、学年別にみると、1年生では進路不安が多く、2年生では仕事適応への不安が相対的に多い傾向がみられた。さらに、金銭面の不安は人間関係への不安よりも多く記述されていた。

#### 4. 主要項目の相関分析

経済困窮感、生活満足 ( $r = -.172, p < .05$ ) および未来への希望 ( $r = -.216, p < .01$ ) と有意な負の相関を示し、生活不安 ( $r = .360, p < .01$ )、職業不安 ( $r = .230, p < .01$ )、経済不安 ( $r = .429, p < .01$ )、心の健康 ( $r = .210, p < .01$ ) と有意な正の相関を示した。経済不安は、生活満足 ( $r = -.168, p < .05$ ) および未来への希望 ( $r = -.450, p < .01$ ) と有意な負の相関を示し、生活不安 ( $r = .718, p < .01$ )、職業不安 ( $r = .594, p < .01$ )、心の健康 ( $r = .300, p < .01$ ) と有意な正の相関を示した。また、金融知識とは負の相関が認められた ( $r = -.214, p < .01$ )。

以上より、経済困窮感および経済不安はいずれも心理的指標と有意に関連しており、特に経済不安は不安関連指標と強い関連を示した。

#### 5. 短大生の職業・結婚観

本調査と同時期に短期大学生対象に、Microsoft Forms を用いた無記名質問紙調査により、将来の就職観および結婚観についてアンケートを実施した。210名にQRコードを配布し、37%の78名の回答が得られた。項目は「マイナビ2026年卒大学生のライフスタイル調査(2024)」「こども家庭庁ライフデザイン・ワーキンググループ配付資料(2025)」を参考にし、結果を比較した。

##### (1) 職業観に関する結果

職業観を複数回答形式で尋ねたところ「楽しく働きたい」が70名と最も多く、次いで「個人の生活と仕事を両立させたい」53名、「人のためになる仕事をしたい」33名、「収入さえあれば良い」29名の順であった。とりわけ「楽しく働きたい」が突出しており、就業に対して充実感や肯定的感情を求める志向の強さが示された。ワークライフバランスについては、「ライフを重視する」73名に対し、「ワークを重視する」は5名にとどまり、仕事中心ではなく私生活との調和を重視する傾向が明らかとなった。

企業選択においては、「安定している会社」46名が最多であり、「給料の良い会社」17名、「自分のやりたい仕事ができる会社」14名が続いた。企業規模志向は大手志向と中堅・中小志向で大きな偏りはみられず、規模よりも安定性や仕事内容が重視されていた。また、志望しない企業像としては「ノルマの

表2. 相関分析の結果 (有意差あり)

項目	経済困窮感	経済不安
生活満足	-.172*	-.168*
未来への希望	-.216**	-.450**
生活不安	.360**	.718**
職業不安	.230**	.594**
心の健康	.210**	.300**
金融知識		-.214**

注) \*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$

きつそうな会社」40名が最多であり、負担の大きい働き方は回避したい意識がうかがえた。

以上の結果は、「マイナビ2026年卒大学生就職意識調査」における傾向と概ね一致していた。同調査においても「楽しく働きたい」が最上位であり、ワークライフバランス志向や安定志向の高まりが報告されている。本調査では、特に「安定」および「ライフ重視」の傾向がより明確であり、短期大学生においては充実感や生活の安定を重視する姿勢が相対的に強い可能性も示された。

### (2) 結婚観および子ども観に関する結果

結婚観調査では、「将来結婚したい」と回答した者は78人中61人(約8割)であり、多くの学生が結婚を望んでいることが明らかとなった。男女差はほとんどみられなかった。結婚したい理由としては、「家庭を持ちたい」「子どもが欲しい」といった家庭形成への希望が最も多く、次いで「一人は寂しい」「孤独死したくない」など、将来の生活不安を背景とした回答もみられた。

理想の結婚年齢は25～29歳が最多であり、とりわけ25歳を挙げる者が多かった。仕事の安定や経済的基盤、出産年齢とのバランスを意識している回答が多かった。子ども観については、結婚を希望する者の約9割が「子どもが欲しい」と回答し、希望人数は「2人」が最も多かった。子どもを望む理由としては「子どもが好き」「かわいい」「憧れがある」など肯定的・情緒的な理由が中心であった。一方、「子どもは欲しくない」とする者は少数であったが、その理由としては「子育てが大変そう」「お金がかかる」「責任が持てない」など、経済的・現実的な不安が挙げられた。

これらの結果を前掲の全国調査と比較すると、結婚を望む割合は大きな差はみられないものの、子どもを持ちたいと考える割合は本調査の方がやや高い傾向にあった。子ども家庭庁の調査では、子どもを望まない理由として「経済的不安」や「自信がない」といった回答が多く示されており、経済的要因が大きな影響を与えている。本調査においても同様の不安は確認されたが、全体としては子どもに対して前向きな意識がより強く表れている点の特徴であった。

### (3) 総括

本調査の結果は、前掲の全国調査と概ね同様の傾向を示し、「安定志向」「ワークライフバランス重視」が短期大学生にもみられた。一方で、子どもを持ちたいと回答した割合は比較的高く、結婚・出産を20代後半に想定する回答が多かった。就職観および結婚観の双方において、安定性や生活との両立を重視する回答が中心であった。

## IV. 考察

### 1. 経済状況と未来への希望と将来不安について

本調査では、生活満足感は概ね高い一方で、経済困窮感が強い層も2割程度存在し、さらに心の健康面や就職・進路に不安を抱える学生も少なくなかった。現在の生活は維持できていると感じつつも、将来の見通しや進路選択の不確かさに不安を感じている可能性がある。短期大学生は在学期間が短く、早期に進路決定を求められることから、将来に対する心理的負担が生じやすい状況にあると考えられる。未来への希望の平均値は3.66であり、中間値付近に分布していた。一方で、将来不安の各項目の平均値はいずれもこれを数値上は上回っていた。これらの結果から、将来に対して一定の希望を持つ学生がみられる一方で、不安感も併存している状況がうかがえた。

相関分析では、経済状況(経済困窮感)は生活満足および未来への希望と負の関連を示し、生活不安・職業不安・経済不安および心の健康(K6)とは正の関連がみられた。特に経済不安は生活不安( $r$

=.718) や職業不安 ( $r=.594$ ) と強い関連を示し、未来への希望とは負の関連 ( $r=-.450$ ) が確認された。これらの結果から、経済面への不安が生活や進路に関する不安とも結びついている可能性がある。

自由記述では、就職・進路に関する不安が最も多く、次いで仕事への適応、金銭面、人間関係に関する不安がみられた。これは、量的分析において職業不安が高かった結果とも一致している。短期大学では在学期間が2年間と短いため、進路を判断する際の迷いと、就職後に適応できるかという心配が連続して生じている状況がみられた。実際に、1年生では進路不安、2年生では仕事適応不安が相対的に多く、学年に応じて不安の内容が変化していることから示された。

また、金融知識は平均が高いとはいえない一方で、金融学習意欲は高いという傾向がみられた。さらに、経済不安と金融知識との間には有意な負の関連が認められ、金融理解の程度と将来の経済的不安との関連が示された。学生の多くが金融について学びたいと考えている実態が明らかとなった。

職業観に関する調査では、「楽しく働きたい」「生活と仕事を両立したい」が多く、ワークよりもライフを重視する姿勢が明確であった。この傾向は、前掲の全国調査と概ね一致している。近年、若年層の働き方に対する価値観については、厚生労働省『労働経済白書』においても、仕事中心型からワークライフバランスを重視する志向への変化が指摘されている。特に若年層では、私生活との調和や無理のない働き方を重視する傾向がみられるとされており、本調査の結果とも整合的であった。

さらに、本調査では「安定」や「働く環境」を求める回答も比較的多くみられ、充実感や両立を求める姿勢と、安定性を重視する傾向が同時に確認された。量的分析において職業不安が高かった結果とあわせて考えると、職業観に理想と不安が併存している状況が示唆された。

## 2. 将来の不安の低減を図るための可能性

本調査の結果から、支援の焦点としては、(a) 進路・就職の不確実性への支援、(b) 経済的不安への支援、(c) 心理的負担 (K6 高得点層) への支援、といった複数の観点が想定された。また、これらは独立した課題というよりも、相互に関連して捉える必要性が示唆された。経済不安は生活不安・職業不安と相関がみられ、未来への希望とも相関がみられた。このことから、単に「お金の問題」への対応にとどまらず、「将来の見通しを立てる力」や「自ら道を選択できる感覚」といった心理的・認知的基盤を育てる支援の必要性がうかがえた。

### (1) 進路・就職不安への支援 (早期・段階的支援)

自由記述で最も多く挙げられた就職・進路不安は、情報不足に加え、「自己理解の不足」「意思決定の迷い」「失敗への不安」といった心理的要因とも関連している可能性が考えられる。この点を踏まえると、支援は単なる情報提供にとどまらず、自己理解を促す機会や、不安を整理する機会とすることが求められる。また、学年差の傾向を踏まえると、1年次では進路の選択肢を広げる段階、2年次では就職後を見据えた具体的準備を意識する段階として検討し、発達段階に応じた支援の設計が重要であると考えられる。

### (2) 経済不安への支援 (“分かる”を増やし、見通しを作る)

経済不安は、生活不安や職業不安と結びつきやすく、学生にとって「将来が見通せない」という感覚として現れている可能性がある。本調査の結果からは、経済面の不透明さが将来への不安感と結びついて認識されていることが推測された。藤波 (2024) は、資産運用の重要性を説明し、将来への安心につ

なると述べている。金融リテラシー教育は、単なる知識伝達にとどまらず、不安を具体化し、対処可能な単位に分解する役割を持つと考えられる。具体的には、奨学金返還額の試算、初任給と生活費の見積り、固定費の管理、基礎的な貯蓄の方法、資産運用の初歩、契約・詐欺トラブルへの注意など、まずは卒業後の生活に直結するテーマを効率的に扱うことが求められる。金融知識が相対的に低い一方で、金融学習意欲が高いという結果から、こうした教育が学生にとって必要と感じられていることが示された。心理的側面からみても、「将来への漠然とした不安」を「具体的な見通しが持てる状態」へと変えていく支援は、安心感の形成に寄与する可能性があると考えられる。

### (3) 心理面への支援（支援に繋がる仕組み）

心理的負担を感じている学生が、必要に応じて早期に支援へつながる仕組みの整備が重要である。相談窓口の周知やアクセスのしやすさ、匿名相談の活用など、相談につながりやすい環境づくりが求められる。また、将来不安や経済不安は日常的なテーマであるため、誰でも気軽にアクセスでき、学内外の資源につながる入口を設けることが望ましいと考えられる。

### (4) “望む働き方”を具体化する支援

本調査では、職業観としてワークライフバランス重視や安定志向が目立った。これらは、全国的な調査においてもみられる近年の傾向と共通するものであり、時代的背景を反映した志向であるともいえる。一方で、情報が十分でないまま選択肢を限定してしまう可能性もある。そのため「安定」の内容（雇用形態、給与、福利厚生、勤務時間、通勤、職場環境等）を具体化し、学生が自らの優先順位を整理できる支援が有効であると考えられる。

以上より、本調査は対象者の学生において、将来に関する不安が広く見られ、特に職業不安や経済不安が心の健康と関連していることが示された。今後は、進路支援、金融教育、心理的支援を相互に連携させながら、将来の見通しを持てる支援の在り方を検討する必要がある。

## V. おわりに

本報告では、短期大学生を対象に、経済状況（経済困窮感）、将来展望（希望・不安）、精神健康度（心の健康）の実態を把握し、それらの関連を検討した。生活満足度は比較的高かった一方で、職業不安や心の健康において配慮を要する層も存在し、経済不安は生活不安・職業不安と強く関連し、未来への希望や精神的健康度（心の健康）とも関連していた。自由記述からも、就職・進路不安を中心に、仕事適応や金銭面の不安が重なり合う構造が示された。

また、金融知識の低さと金融学習意欲の高さが併存し、卒業後の生活設計に資する金融教育の機会が求められていることを確認した。今後は、心理的ウェルビーイング等の指標も含め、将来不安の形成要因や、支援・教育が希望感や心の健康に与える影響をより精緻に検討する必要がある。短期大学という限られた期間の中で、学生が将来の見通しを持ち、安心して進路選択できるよう、学内のキャリア支援・学生支援・金融教育を連携させた取り組みが期待される。

今後の課題として、本研究は単一短期大学の学生を対象とした横断的調査であり、結果の一般化には慎重さが必要である。また、すべて自己報告式尺度を用いているため、回答傾向の影響を受ける可能性がある。さらに、職業観に関する調査は一部別日に実施しており、対象者数も異なる点に留意する必要がある。今後は、縦断的検討や他大学との比較、心理的ウェルビーイングを含めた詳細な分析を行い、

各要因の関連構造を明らかにするとともに、将来不安の低減に向けた支援の方向性を検討していくことが求められる。

## 謝辞

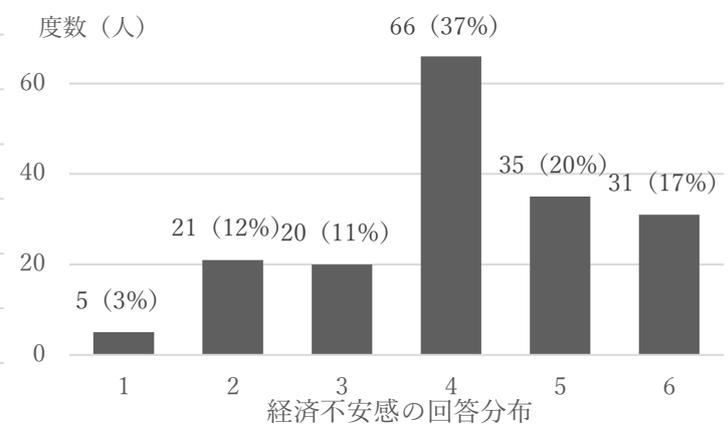
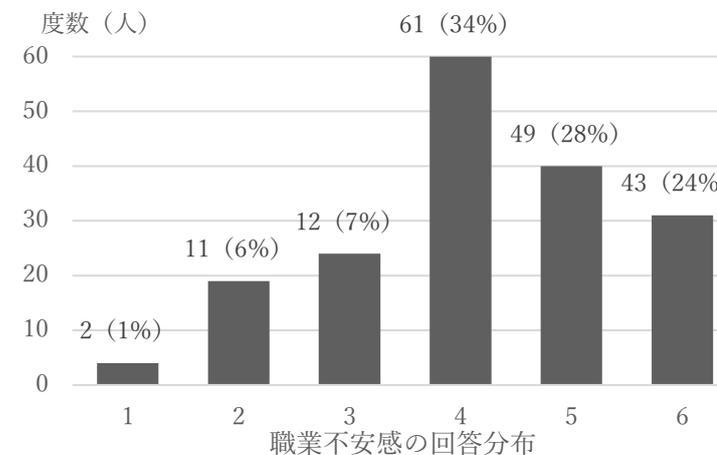
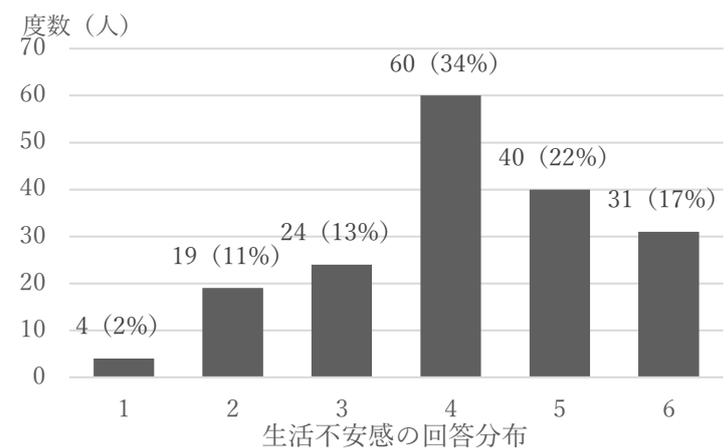
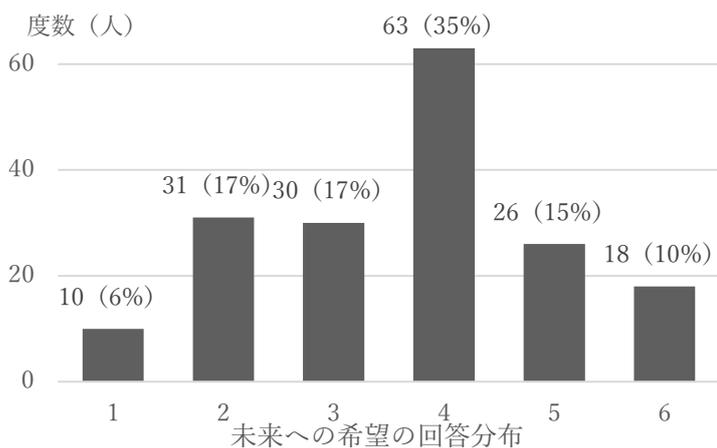
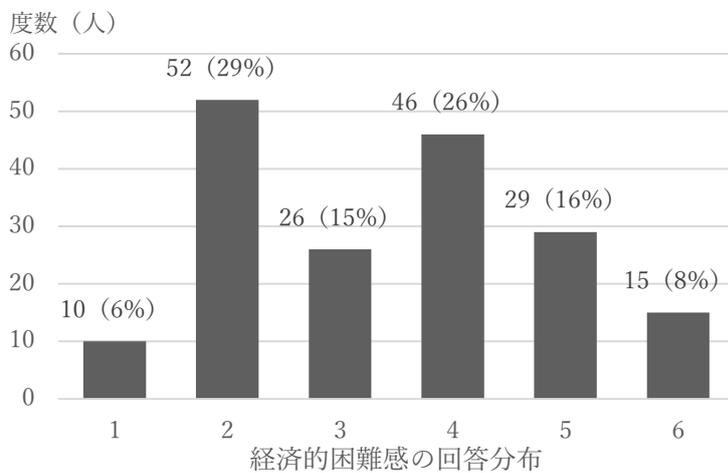
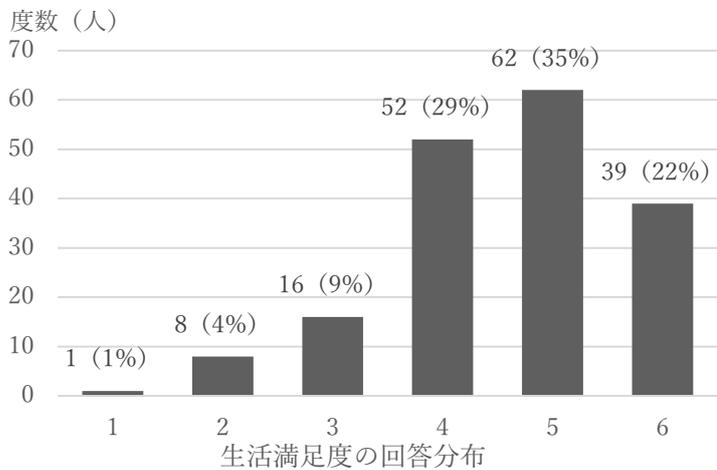
本研究は、長野県私学教育協会の私立学校研究助成金の助成を受けて実施しました。ここに感謝申し上げます。また、調査にご協力いただいた学生の皆様、ならびに研究にご助言・ご支援をいただいた関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

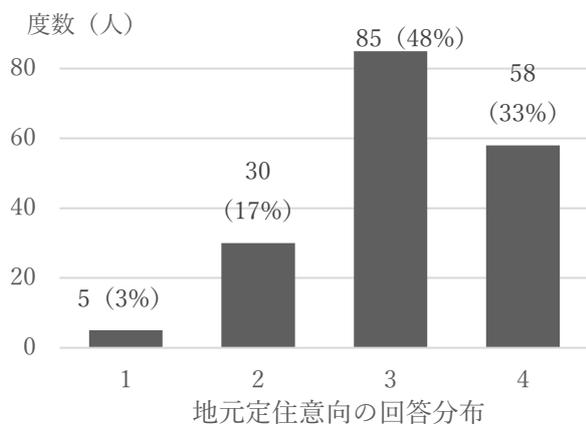
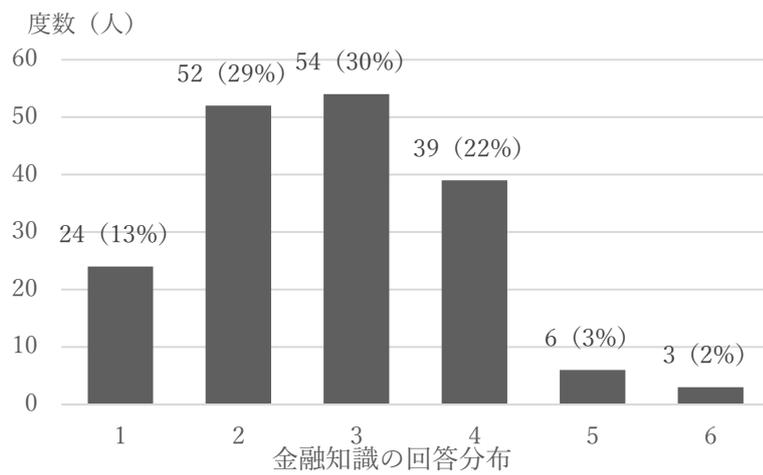
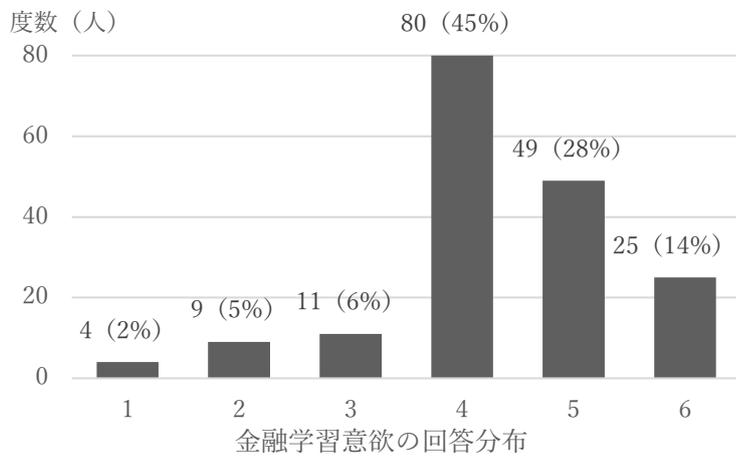
## 参考文献

- 古川 壽亮・大野 裕・宇田 英典・中根 允文 (2003). 一般住民における精神健康調査票 (K6) の妥当性とカットオフポイントの検討. 精神医学, 45, 123-131.
- 濱中 淳子 (2018). 「最近の大学生」の社会学. 筑摩書房.
- 飯塚 徹・浜崎 央・藤波 大三郎 (2024). 第3章 金融リテラシーの基礎・展開 (pp.117-153). 地域金融機関の将来の在り方 I — 長野県の地域金融機関を事例に (個人取引編) —. 創成社.
- 井上 彰臣 (2016). 大学生の経済的不安と精神的健康の関連. 学生相談研究, 37, 45-54.
- 岩野 卓・新川 広樹・青木 俊太郎・門田 竜乃輔・堀内 聡・坂野 雄二 (2015). 心理的ウェルビーイング尺度短縮版の開発. 行動科学, 54(1), 9-21.
- 金融広報中央委員会 (2022). 安心ミライへの「金融教育」ガイドブック Q&A. 金融広報中央委員会.
- 厚生労働省 (2024). 国民生活基礎調査. <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/20-21.html>
- Kessler, R. C., Andrews, G., Colpe, L. J., et al. (2002). Short screening scales to monitor population prevalences and trends in non-specific psychological distress. Psychological Medicine, 32, 959-976.
- 株式会社マイナビ (2024). 2026年卒大学生就職意識調査. <https://careerresearch.mynavi.jp/research/2026sotsu-ishiki/>
- 中室 牧子 (2015). 科学的根拠 (エビデンス) で子育て. ダイヤモンド社.
- 佐藤 嘉倫・尾嶋 史章 (2013). 社会階層と健康の関連. 社会学評論, 64, 56-72.
- 白波瀬 佐和子 (2010). 格差社会と若者の不安. 東京大学出版会.
- 地域社会学会 (2024). 地域社会学会年報 第37集. 地域社会学会.
- こども家庭庁 (2025). ライフデザイン・ワーキンググループ (第15回) 配付資料. [https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic\\_page/field\\_ref\\_resources/5a310876-d01c-4f68-befb-841026bec796/3cb704e7/20250514\\_councils\\_lifedesign-wg\\_15.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/5a310876-d01c-4f68-befb-841026bec796/3cb704e7/20250514_councils_lifedesign-wg_15.pdf)
- こども家庭庁 (2024). ライフデザイン・ワーキンググループ配付資料. [https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic\\_page/field\\_ref\\_resources/f27802a2-0546-424d-ac61-ac0641d67d38/cf9b37be/20240719\\_councils\\_lifedesign-wg\\_f27802a2\\_02.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/f27802a2-0546-424d-ac61-ac0641d67d38/cf9b37be/20240719_councils_lifedesign-wg_f27802a2_02.pdf)
- 全国大学生生活協同組合連合会 (2024). 学生生活実態調査. <https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>
- 日本学生支援機構 (2024). 学生生活調査報告. [https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei\\_chosa/\\_icsFiles/afieldfile/2024/11/12/houkoku22\\_all.pdf](https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/_icsFiles/afieldfile/2024/11/12/houkoku22_all.pdf)

資料：主要項目回答の分布

凡例 1全く当てはまらない 2あまり当てはまらない 3どちらかといえば当てはまらない  
4どちらかといえば当てはまる 5かなり当てはまる 6非常に当てはまる





1全く当てはまらない 2あまり当てはまらない  
3かなり当てはまる 4非常に当てはまる